

107

F

◎ 指示があるまで開かないこと。

(平成 25 年 2 月 10 日 16 時 00 分～17 時 00 分)

注 意 事 項

1. 試験問題の数は 31 問で解答時間は正味 1 時間である。
2. 解答方法は次のとおりである。

各問題には a から e までの 5 つの選択肢があるので、そのうち質問に適した
選択肢を 1 つ選び答案用紙に記入すること。

(例) 101 応招義務を規定しているのはどれか。

- a 刑 法
- b 医療法
- c 医師法
- d 健康保険法
- e 地域保健法

正解は「c」であるから答案用紙の **(c)** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

101 (a) (b) (c) (d) (e)
↓
101 (a) (b) (●) (d) (e)

答案用紙②の場合、

101 101
(a) (a)
(b) (b)
(c) → (●)
(d) (d)
(e) (e)

- 1 インフォームドコンセントについて正しいのはどれか。
 - a 看護師も情報提供することができる。
 - b 新薬の臨床試験においては必要ない。
 - c 病名告知には親族の了解が必要である。
 - d 未成年の患者では本人の承諾は必要ない。
 - e 事前の意思が不明な意識障害の患者には救命処置をしてはならない。

- 2 児童相談所の業務の対象でないのはどれか。
 - a 虐待
 - b 非行
 - c 不登校
 - d 生活保護
 - e 心身障害

- 3 加齢に伴う心臓の変化で正しいのはどれか。
 - a 心房容積は減少する。
 - b 左室後負荷は減少する。
 - c 左室拡張機能は低下する。
 - d 運動時に左室駆出率の増加が著明になる。
 - e 運動時に到達可能な最大心拍数は増加する。

- 4 医師の振舞いとして適切でないのはどれか。
- a 院内 PHS で話すときは、周囲に十分配慮して話す。
 - b 面談室で患者に病状説明した後は、患者より後に退室する。
 - c 患者と話をするときは、できるだけ目線の高さを同じにする。
 - d エレベーターを使用するときは、緊急時以外は患者を優先する。
 - e 上司が外出中であることを患者に伝える場合は「○○先生は外出しておられます」と言う。
- 5 チアノーゼについて正しいのはどれか。
- a 健常人にはみられない。
 - b 貧血になると起こりやすい。
 - c 酸化ヘモグロビンが 5 g/dl 以上で起こる。
 - d 末梢性では動脈血酸素飽和度は正常である。
 - e Fallot 四徴症では下半身に局限してみられる。
- 6 両側眼球結膜の充血が診断に有用なのはどれか。
- a 川崎病
 - b 皮膚筋炎
 - c 側頭動脈炎
 - d 関節リウマチ
 - e 全身性エリテマトーデス (SLE)

7 眼底を立体的に観察することが可能なのはどれか。

- a 暗順応検査
- b 直像鏡検査
- c 眼軸長検査
- d 双眼倒像鏡検査
- e 網膜電図<ERG>

8 四肢開放骨折の合併症で golden period を最も重視すべきなのはどれか。

ただし、golden period とは受傷から 6～8 時間後までであり、golden time もしくは最適期とも呼ばれる。

- a 感染
- b 出血傾向
- c 循環不全
- d 骨癒合不全
- e 深部静脈血栓

9 圧痕を残さない浮腫の原因となるのはどれか。

- a 心不全
- b 塩分過剰摂取
- c 深部静脈血栓
- d 甲状腺機能低下症
- e ネフローゼ症候群

- 10 凍結切片による迅速診断時の組織の取扱いで適切なのはどれか。
- a アルコール固定液につける。
 - b ホルマリン固定液につける。
 - c ドライヤーでよく乾燥させる。
 - d 生理食塩液で湿らせたガーゼで包む。
 - e グルタルアルデヒド固定液につける。
- 11 検査の診断特性に関して正しいのはどれか。
- a ROC 曲線の縦軸は特異度、横軸は感度である。
 - b 特異度が高い検査は、診断の確定に有用である。
 - c カットオフ値を変えて感度を上げると、特異度も上がる。
 - d 感度は、検査が陽性のときに真に疾患を有する割合を指す。
 - e 同じ検査であれば、検査前確率にかかわらず検査後確率は一定である。
- 12 無尿をきたすのはどれか。
- a 大腸癌
 - b 膀胱癌
 - c 子宮筋腫
 - d 前立腺肥大症
 - e 両側尿管結石

13 薬物と副作用の組合せで誤っているのはどれか。

- a 経口避妊薬 ————— 皮下出血
- b ビスホスホネート ————— 食道潰瘍
- c ベンゾジアゼピン系薬 ————— ふらつき
- d HMG-CoA 還元酵素阻害薬 ————— 横紋筋融解症
- e 非ステロイド性抗炎症薬(NSAIDs) ————— 胃潰瘍

14 疾患とリスクファクターの組合せで正しいのはどれか。

- a 胃潰瘍 ————— 高塩分食
- b 虚血性心疾患 ————— 喫煙
- c 骨粗鬆症 ————— 肥満
- d 痛風 ————— 高脂肪食
- e 白血病 ————— 飲酒

15 研修医が学会での症例報告の原稿を準備している。発表は明後日に迫っている。

症例の記述、診断手順、実施された治療などの執筆は問題なく終了した。しかし、考察で何を論じればよいか全くわからなかった。指導医師は明日朝一番で予行演習を行うよう指示した。研修医は今まで集めた論文の考察部分から段落ごと文章を抜き出し、参考文献として言及することなく自分自身の考察として記述した。

このまま発表する場合に該当する不正行為はどれか。

- a 偽造
- b 捏造
- c 二重投稿
- d ひょう窃(盗用)
- e ギフト・オーサーシップ

16 60歳の女性。顔のむくみ、息苦しさ及び痰に血が混じることを主訴に来院した。3か月前から顔面腫脹、咳嗽および呼吸困難のため自宅近くの診療所で抗菌薬と利尿薬とを処方され内服したが軽快しなかった。1週間前から血痰もみられるようになったため受診した。喫煙は30本/日を35年間。意識は清明。身長160cm、体重68kg。体温36.7℃。脈拍92/分、整。血圧140/96mmHg。呼吸数14/分。SpO₂96%(room air)。頸静脈と前胸部皮静脈とに怒張を認める。心音と呼吸音とに異常を認めない。右鎖骨上窩に径2cmのリンパ節を触知する。NSE 107 ng/ml(基準10以下)、ProGRP 580 pg/ml(基準46以下)。胸部エックス線写真(別冊No. 1)を別に示す。

狭窄または閉塞が考えられる血管はどれか。

- a 右上肺静脈
- b 腕頭動脈
- c 上大静脈
- d 右肺動脈
- e 下大静脈

別冊
No. 1

17 28歳の女性。咳を主訴に来院した。問診票に「2か月前から咳と痰が出る。1か月前から37℃前後の微熱と全身倦怠感がある。1週間前から痰に血が混じる。喫煙歴はない」と記載されている。家族に付き添われ、咳をしている。マスクの写真(別冊No. 2 ①、②)を別に示す。

対象者と使用するマスクの組合せで適切なのはどれか。

	患者	家族	医療者
a	①	①	①
b	①	①	②
c	①	②	②
d	②	②	①
e	②	①	①

別冊
No. 2 ①、②

18 50歳の男性。自宅で地震に遭い、倒れてきたたんすに右下肢を挟まれて動けなくなった。翌日に救出されて救急外来に搬送された。骨折はなく全身状態は良好であったが、褐色尿を認めた。

尿所見として考えられるのはどれか。

- a 糖陽性
- b ビリルビン陽性
- c 潜血反応陽性
- d 沈渣に赤血球 30～49/1 視野
- e 沈渣に白血球 10～30/1 視野

19 7か月の男児。発熱を主訴に来院した。昨夜から急に発熱した。咳と鼻汁とを認めない。やや活気がないが哺乳力は良好である。最近3か月の間に今回と同様、感冒様症状を伴わない発熱を2回繰り返しているが、抗菌薬の内服でいずれも軽快している。体温39.5℃。心拍数132/分、整。呼吸数28/分。咽頭と呼吸音とに異常を認めない。鼓膜の発赤を認めない。大泉門の膨隆を認めない。

診断のためにまず行うべき検査はどれか。

- a 尿検査
- b 咽頭培養
- c 脳脊髄液検査
- d 頭部超音波検査
- e 胸部エックス線撮影

20 中年の男性。駅の構内で研修医の目の前で突然倒れた。研修医は周囲の安全を確認後に男性に呼びかけたが、反応がないため大声で駅員を呼び、救急車を要請し、自動体外式除細動器(AED)をすぐに持ってくるように指示した。呼吸を確認したが自発呼吸は認められない。

日本蘇生協議会ガイドライン2010に基づいて、この研修医がまず行うべきなのはどれか。

- a 胸骨を叩打する。
- b 胸骨を圧迫する。
- c 回復体位にする。
- d 両下肢を挙上する。
- e 対光反射を観察する。

21 22歳の男性。健康診断の胸部エックス線写真で心陰影の拡大を指摘され来院した。自覚症状はない。既往歴に特記すべきことはない。喫煙歴はない。脈拍72/分、整。血圧108/64 mmHg。心尖部に汎〈全〉収縮期雑音を聴取する。呼吸音に異常を認めない。下腿に浮腫を認めない。心電図は洞調律で、左側前胸部誘導でR波の高電位を認める。心エコー図(左室短軸像)(別冊No. 3A、B)を別に示す。後日行った冠動脈造影では異常を認めなかった。

治療薬として適切なのはどれか。

- a 強心薬
- b 利尿薬
- c α 遮断薬
- d カルシウム拮抗薬
- e アンジオテンシン変換酵素阻害薬



22 2歳の女児。発熱、咳嗽および呼吸困難を主訴に来院した。前日から発熱し、当日朝から咳嗽が出現した。夕方から嘔声 appeared。夜になって犬が吠えるような咳がみられるようになり、呼吸が苦しそうだったため、母親に連れられて受診した。意識は清明だが、顔色はやや不良である。呼吸数30/分。軽度の陥没呼吸を認める。SpO₂ 94%(room air)。

胸部の聴診で聴取される可能性が最も高いのはどれか。

- a 吸気性喘鳴
- b 呼気性喘鳴
- c 胸膜摩擦音
- d fine crackles
- e coarse crackles

23 36歳の男性。会社の健康診断で初めて異常値を指摘されて来院した。自覚症状はない。既往歴に特記すべきことはない。間食が多く、夜は外食が多い。運動は特にしていない。喫煙歴はない。飲酒は機会飲酒。父親が高血圧症、脂質異常症および糖尿病のため治療中である。身長170 cm、体重81 kg、腹囲96 cm。脈拍80/分、整。血圧138/82 mmHg。肥満以外に身体診察で異常を認めない。尿所見：蛋白(-)、糖(-)、潜血(-)。血液生化学所見：空腹時血糖103 mg/dl、HbA1c (NGSP)6.3% (基準4.6~6.2)、尿素窒素12 mg/dl、クレアチニン0.7 mg/dl、トリグリセリド183 mg/dl、HDL コレステロール35 mg/dl、LDL コレステロール152 mg/dl、AST 32 IU/l、ALT 30 IU/l、 γ -GTP 46 IU/l (基準8~50)。

まず行う対応として適切なのはどれか。

- a 食事・運動の指導
- b スルホニル尿素薬の投与
- c フィブラート系薬の投与
- d HMG-CoA 還元酵素阻害薬の投与
- e アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬の投与

24 72歳の男性。病期Ⅳの胃癌で緩和ケアのため入院中である。在宅ホスピスへの移行に際し、患者本人と家族との間で療養環境について意見の対立が起こったため担当医師が患者本人と家族の意見をそれぞれ十分に聞いた。

次に行う対応として最も適切なのはどれか。

- a 弁護士に相談する。
- b 看護部長に相談する。
- c 福祉事務所に相談する。
- d 多職種からなるチームで話し合う。
- e 担当医師が単独で方針を決定する。

25 80歳の男性。発熱のため搬入された。数日前から38℃台の発熱が続き、食事もとれなくなってきた。尿が出なくなったため、長女が救急車を要請した。導尿時混濁尿を認め、尿路感染症と診断し、尿道カテーテルを留置した。

対応として適切なのはどれか。

- a 尿道カテーテルと連結する蓄尿バッグは開放式回路を用いる。
- b 尿道カテーテルは陰茎を頭側に向けて下腹部に固定する。
- c 尿道カテーテルを3日ごとに入れ換える。
- d 入院中は連日膀胱洗浄を行う。
- e 留置中は安静臥床を促す。

次の文を読み、26、27の問いに答えよ。

65歳の男性。息切れを主訴に来院した。

現病歴 : 1年前に大腸癌の手術を受けたが、非治癒切除であった。その後抗癌化学療法を内服で行っていたが、食欲低下が著明であったため、本人の希望により中止した。5日前から急いで歩くと息が切れるのを自覚していたが、本日昼ころからじっとしていても苦しくなり、徐々に増悪するため受診した。

既往歴 : 特記すべきことはない。

生活歴 : 喫煙歴はない。飲酒は機会飲酒。

家族歴 : 父親が脳卒中のため80歳で死亡。

現症 : 意識は清明。身長167 cm、体重56 kg。体温35.8℃。脈拍120/分、整。血圧82/60 mmHg。呼吸数32/分。頸部の静脈怒張と心濁音界の拡大とを認める。両側下胸部でcoarse cracklesを聴取する。

検査所見 : 血液所見：赤血球348万、Hb9.7 g/dl、Ht31%、白血球8,600、血小板32万。血液生化学所見：アルブミン2.8 g/dl、尿素窒素31 mg/dl、クレアチニン1.1 mg/dl、総ビリルビン0.6 mg/dl、AST249 IU/l、ALT246 IU/l、LD623 IU/l(基準176~353)、ALP423 IU/l(基準115~359)、Na142 mEq/l、K4.7 mEq/l、Cl105 mEq/l。CRP6.5 mg/dl。動脈血ガス分析(マスク10 l/分酸素投与下)：pH7.47、PaCO₂33 Torr、PaO₂120 Torr、HCO₃⁻23 mEq/l。12誘導心電図で洞性頻脈と低電位とを認める。胸部エックス線写真で心陰影の拡大と両側下肺野に浸潤影とを認める。胸部単純CT(別冊No. 4)を別に示す。

別冊

No. 4

- 26 患者と家族への説明として適切なのはどれか。
- a 「息苦しさは大腸癌とは無関係です」
 - b 「もう最期まで自宅には帰れません」
 - c 「どんな治療をしても1か月の命です」
 - d 「息苦しさを和らげる方法を一緒に考えましょう」
 - e 「抗癌化学療法を続けていれば防げたと思います」

- 27 症状緩和のためにまず提案すべき治療はどれか。
- a 心嚢穿刺
 - b 人工呼吸器の装着
 - c 気管支拡張薬の投与
 - d 抗癌化学療法の再開
 - e アルブミン製剤の投与

次の文を読み、28、29の問いに答えよ。

19歳の男性。左胸痛を主訴に来院した。

現病歴 : 昨日の夕方、散歩中に左胸の痛み気付いた。深呼吸をするとさらに息が苦しくなる感じがした。自宅で様子を見ていたが改善しないため、本日朝、徒歩で来院した。胸痛は我慢できないほどではない。

既往歴 : 12歳時に虫垂切除術。

家族歴 : 祖父が肺癌のため72歳で死亡。

現症 : 意識は清明。身長176 cm、体重58 kg。体温36.5℃。脈拍88/分、整。血圧124/72 mmHg。呼吸数20/分。SpO₂97% (room air)。体位による痛みの変化を認めない。橈骨動脈の触知は良好で左右差を認めない。足背動脈の触知は良好で左右差を認めない。下腿浮腫を認めない。

28 この患者の身体所見で最も考えられるのはどれか。

- a 過剰心音
- b 拡張期雑音
- c 頸静脈の虚脱
- d 頸部の血管雑音
- e 呼吸音の左右差

29 次に行うべき対応はどれか。

- a 帰宅許可
- b 酸素投与
- c 静脈路確保
- d 心電図モニター装着
- e 胸部エックス線撮影

次の文を読み、30、31の問いに答えよ。

22歳の女性。気分不良のため救護所に運びこまれた。

ある会社の社員運動会が4月に行われた。朝の社長訓示の際、体育館で社員は全員起立して訓示を聞いていた。患者は社長の訓示中に崩れるようにしゃがみ込んだため運ばれて来た。以下は患者、この患者に付き添ってきた同僚社員および救護所医師の会話である。

救護所医師 「どうされました」

患者 「気分が悪くなってしまい・・・」

同僚社員 「先生、貧血です」

救護所医師 「どんな様子だったかもっと詳しく教えて下さい」

同僚社員 「社長の訓示中、気分が悪いと言ってしゃがみ込んだんです」

救護所医師 「意識はありましたか」

患者 「はい。意識はありました」

同僚社員 「ええ。どうしたのと聞いたら、気分が悪いと本人が話していました。

顔色も悪く、貧血だったので、そのままこの救護所に連れて来ました」

救護所でのバイタルサインは以下のようであった。

体温 36.0℃。脈拍 112/分、整。血圧 120/70 mmHg。呼吸数 16/分。

30 この患者がしゃがみ込んだ際に診察していれば観察されたと推測される診察所見はどれか。

- a 眼瞼浮腫
- b 体温 38.0℃
- c 脈拍 40/分
- d 呼吸数 24/分
- e 拡張期血圧 100 mmHg

31 その後 15 分救護所で安静にしていたところ、気分の悪さは改善したという。患者はこの 4 月に入社し、入社時の健康診断で異常はなかった。入社以来仕事に慣れず、昨日も深夜まで勤務し、睡眠時間も十分でなかったという。既往歴、月経歴および家族歴に特記すべきことはない。

対応として適切なのはどれか。

- a 輸血
- b 経過観察
- c 鉄剤の経口投与
- d アドレナリンの静注
- e 角砂糖の摂取の指示

